

「主イエスの誕生予告」

2022年12月14日

天使は、彼女のところに来て言った。「おめでとう。恵まれた方。主があなたと共におられる。」マリアはこの言葉にひどく戸惑って、これは一体何の挨拶かと考え込んだ。すると、天使は言った。「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。あなたは身ごもって男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。」（ルカ福音書1：28～30）マリアは言った、「私は主の仕え女です。お言葉どおり、この身になりますように。」そこで、天使は去っていった。（ルカ福音書1：38）

著者ルカは、主イエスの誕生をマリアの側から描いている。天使ガブリエルは祭司ザカリアに洗礼者ヨハネの誕生を予告した6ヶ月目に、ナザレに住む、ダビデ家のヨセフのいなずけのおとめマリアのところに遣わされ、彼女に言った。「おめでとう。恵まれた方。主があなたと共におられる。」マリアはこの言葉にひどく戸惑って、これは一体何の挨拶かと考え込んだ。すると、天使は言った。『マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。あなたは身ごもって男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。』ガブリエルはマリアに、イエスの誕生を予告し、イエスは誰であり、何をなさるのかを語った。その子は偉大な人となり、いと高き方（神）の子と呼ばれる。神はイエスにダビデの王座を与え、永遠にヤコブ（イスラエル）の家を治め、その支配は終わることがない、と。マリアは天使に、「どうして、そんなことがありえましょうか。私は男の人を知りませんのに」と言い返した。「知りません」とは性的関係がないことである。すると、天使は、「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを覆う。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる」と答えた。イエスの誕生は聖霊のなせる業で、イエスは聖なる神の子である。そして、あなたの親類のエリサベトは不妊の女と言われていたが、老年ながら男の子を身ごもり、もう6ヶ月になっていると告げ、「神にはできないことは何一つない」と宣言する。マリアは、「私は主の仕え女です。お言葉どおり、この身になりますように」と、天使ガブリエルのみ告げを受け入れる。天使はマリアの信仰を聞いて、去って行った。古来より、多く描かれている「受胎告知」の美しいシーンである。

人の誕生は男女の性交によってはじめて可能となる。著者ルカは、イエスの誕生は男女の性的な関係ではなく、それを越えた、神が介入する聖霊によって、おとめマリアは、イエスを懐妊したと書いている。昔から、特別な人は、尋常ではない出産をしたという逸話はたくさんある。処女降誕は、著者ルカの信仰告白からの神話的記述である。

神話であるから、意味がないということではない。古代では、自分の主張を神話的表現で著すことは当たり前であった。著者ルカは、イエスは神の子キリストであると知らせ、この方に人間の救いがあると説きたいとルカ福音書を書き始めた。その時、イエスは人間を超えた神との関りの中で「生」を受けたと書くことは、自然であり、当然であった。この視座から、主イエスの生涯と、そこに表された「救い」を弁証したいのである。

マリアは砕かれた信仰で、「お言葉どおり、この身になりますように」と応じたが、マリアに倣い、マリアの聖霊による受胎を信じる時、「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる」という天使の言葉が、主イエスによって、インマヌエル（神は私たちと共におられる）の救いに与った自分への言葉として受け止められる。